

「師匠」と同日初V

藤田はシニア、「弟子」は九州制す

8 アンダー 208

黒木 紀至 (UMKテレビ宮崎)



えんホールディングス(福岡市)からの優勝副賞200万円を手にとこりの黒木

自然と両手を突き上げていた。最終 18 番ロング (524 ヤード)。1・5 m の上りの軽いフックライン。「『ボールが早く消えてくれ』と思いました。上がり 3 ホールは手が震えっ放し。(優勝は) 最高でした」。1 組前の狩俣は同じ 18 番でバーディーを奪い、通算 7 アンダーでホールアウトしていた。黒木が最後のパットを外していたら、プレーオフに持ち込まれるところだった。が、そうはならない。緊張の場面で勝利のバーディーパットを決めた。

宮崎県高鍋町出身の 28 歳。2014 年にプロ転向し、16 年にプロテストに合格。「日本プロ新人選手権」をプレーオフで制した。15 年には九州サーキットの「キミエコーポレーションカップ」にも勝っている。この頃は勢いもあったが、もう一つ伸び悩む。

転機が訪れたのは昨年 12 月だ。ウェアの同じ契約プロが集まった時に、黒木のスイング

に大きな影響を及ぼすことになる「師匠」藤田寛之（葛城GC、53歳）と出会う。藤田は言わずと知れた賞金王にも輝いた日本のトッププロ。フェードボールを武器に国内ツアー18勝（メジャー3勝）を挙げている。その藤田に黒木は弟子入りすることになる。今年2月には黒木の地元・宮崎に足を運んでもらい、4月には藤田の所属する葛城GCにも赴いた。そこでフェードボールの体得に励む。スイングの動画を撮ってはLINEで送ってアドバイスを受けた。徐々に成果は上がり、今年4月の九州サーキットの「トヨタカップ」では2位。そして今大会の初優勝である。「ボールが止まるし、コントロールしやすい」とドローからフェードに変えての手応えを感じている。



今回の九州オープンが初日となるはずだった16日が雨のためコースコンディション不良で中止となり、3日間に短縮された。一方、黒木の師匠・藤田は17日から3日間で争われた「スターツシニア」でシニア初優勝を手にした。師匠と弟子が19日の日曜日をハッピーサンデーにしたのだ。

現在の黒木は、下部ツアーを主な戦いの場としている。安定感を増したプレーで、そこから這い上がってレギュラーツアー出場への足掛かりを掴むしかない。



体調不良ながらも、ベストアマを獲得

主催／九州ゴルフ連盟 会場／PGMゴルフリゾート沖縄



代々木高3年の吉田京介（中津CC）が初のベストアマを獲得した。プロに混じって通算3オーバー219で23位タイ。「最終日はアンダーを出すしかない、攻めるしかない、と思っていた。2日目はドライバーを折りたいほどひどかったけど、きょうは良かった」と最終日のパープレーに笑顔を見せた。ベストアマは一昨年の北九州オープン、

今年の大分東急オープンに続いて3度目。今月2日、新型コロナの3回目のワクチンを接種したものの、39度の熱が出た。現在の体調は徐々に戻ってきてはいるが、本調子ではない。「九州ジュニアまで戻ればいい。ジュニアでは優勝したい」と抱負を述べた。

【写真はベストアマを獲得した吉田君、右は水田九州ゴルフ連盟理事長】



10 番グリーン（手前）と 11 番のフェアウエー（向こう）



4 番ショート。グリーンをバンカーがぐるっと囲む